

## SCARTSラーニングプログラム

文化芸術事業に取り組む皆さんにとって、悩みの種の一つである資金の確保。

その解決策の一つとして助成金などの公的資金の獲得を目指す方も

多いのではないのでしょうか。

でも、何度応募しても採択されない。

どのように取り組みを見直せばよいかわからない。

そもそも申請書を書くのが難しい。そんなお悩みの声が多く聞かれます。

助成金の獲得には審査があるため、必ず採択されるという正解はありません。

しかし、これまでと視点を変えることで、採択の可能性は高まります。

今回の「SCARTSラーニングプログラム」では、レクチャーとグループワークを通じて、

みなさんの文化芸術活動を客観的に見直し、

視点を変える機会となるよう、一緒に考えていきたいと思います。

公的支援を利用するために  
求められていることは何か、  
取り組みを見直してみる



## プログラム

### 第一部／13:00-14:00 レクチャー

#### 「“公的支援”とは何か

～意義・必要性をめぐる考え方の違い～

#### 01 行政が期待する文化芸術活動

- 文化政策の目的
- 文化芸術における公益性とは何か

#### 02 求められる成果・効果 ～“変化”を考える～

- 取り組みを客観的に見直す
- 共感を得るための視点
- 論理的に分析してみる(ロジック・シンキング)

#### 03 共感を生むための取り組み事例

### 第二部／14:20-15:40 グループワーク

#### 「取り組みを見直すためのグループワーク」

#### 04 助成金申請書の書き方

- 応募要領、申請書を読み解く
- 審査員になってみる
- 自分の取り組みを見直してみる

### 第三部／16:00-17:00 個別相談会 【1組15分】



講師  
杉浦 幹男  
インディペンデント・ディレクター

東京都池袋生まれ。東京藝術大学美術学部芸術学科卒業、大阪府立大学大学院創造都市研究科修士(学術修士)。株式会社三和総合研究所(現、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)主任研究員、大阪府立大学都市研究プラザ 特任講師、コンテンツ産業を支援するNPO法人等を経て、平成28年3月まで沖縄アーツカウンシル((公財)沖縄県文化振興会)プログラム・ディレクターを務める。平成28年9月のアーツカウンシル新潟設立とともに、プログラム・ディレクターに就任、令和5年3月退職。

沖縄県、新潟市のほか、静岡県や岡山県、宮崎県等のアーツカウンシル設立および運営に関わり、文化芸術の地域における支援のあり方と役割について考え、実践していく場に身を置き、文化芸術政策のほか、都市・地域における文化産業を含めた地方自治政策全般を専門としている。現在は、インディペンデント・ディレクターとして、国内外のアーツカウンシル及びアートプロジェクトにおけるアドバイザー等を務める。